

〈平成 22 年度 総会〉

開 催 挨 拶

環境システム計測制御学会 会長 田 中 宏 明

平成 22 年度環境システム計測制御学会総会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

日ごろから、本学会 EICA をご支援いただきありがとうございます。昨年 10 月に岡山市で開催いたしました研究発表会は、多数の皆様方にご参加いただき、活発な発表と意見交換、施設見学が行われました。会員の皆様方の積極的なご協力に御礼申し上げます。

政権交代から早くも 8 か月がたち、相変わらず、公共投資を取り巻く環境は、大変厳しいものがあります。またリーマンショックに端を発した経済危機は、アジア新興国の活発な経済投資などで、ようやく危機を脱した感がありましたが、ギリシャの財政危機で、再び不透明となっています。

しかし、政府、民間ともに、国内での市場の成長の限界を、アジアなどのインフラ整備の整備に大きな期待が高まっています。2005 年から 2030 年までの 25 年間に、水分野は、電力、鉄道・道路、空港・港湾を上回る、20 数兆ドルの投資が行われ、その約半分がアジアで必要となると経済産業省は予測しております。

本会は環境問題の諸分野における計測・制御・システム化に関する研究や技術の進歩発達を図り、応用的技術の普及を通じて環境問題の解決に寄与することを目的としております。アジアの国々から求められる環境にかかわる計測、制御、システム化の技術は、会員の皆様方が、これまで開発してきた分野であり、今後、環境、エネルギー分野で最も必要な技術であります。国内での期待される思い切った地球温暖化対策に加え



て、これらの動向を支援できる体制を EICA においても取り組んでいきたいと考えます。

EICA 設立 20 周年を迎え、20 周年記念事業推進プロジェクトを推進しております。

この総会に引き続いて行われる講演会では、記念講演：「EICA20 周年を迎えて」と題して、EICA 名誉会員 後藤顕之輔さんから講演いただきます。そのあと、電気通信大学 教授の新誠一先生をお招きし、特別講演：「環境は電気通信の時代」を予定しております。

今後とも、地球環境、地域環境、国際協力を視野にいたした学会活動を展開できますようお願いしております。皆様方のこれまで以上のご支援を頂けますよう宜しくお願い申し上げます。